

<第4612回>

目的地：荒地山（周回コース）

担当者：角村浩一

実施日：2025年6月15日（日）

形式：日帰りハイキング

費用：¥580（阪急：大阪梅田—芦屋川駅往復）

参加者：9名

天気：曇時々晴れ

行程：

阪急芦屋川駅(9:40)→(10:30)城山(10:35)→(10:55)高座谷への分岐(11:00)→(11:25)岩梯子→(11:35)七右衛門峠→(11:47)テーブルロック(11:57)→(12:15)荒地山(12:25)→(12:50)荒地山への分岐→(13:05)横池・雄池【昼食】(13:40)→(13:50)風吹岩(13:55)→(14:40)高座の滝(14:50)→(15:15)芦屋川駅【解散】

感想：

近畿地方の梅雨入り（6月9日）から六日後の日曜日、梅雨の合間の例会（後日備考：今年は異例の速さで6月27日に梅雨明けした）。前日は雷雨を伴う大雨。やっぱり、私の雨男由縁に例会中止かなと思った。

しかし、前夜の気象庁予報では回復傾向にあり、翌日午前の降水確率は50%、午後から曇りのち晴れ。晴れ男の気持ちに切り替えて、よし、歩こうと荷造りを始めた。蒸し暑さは仕方がないが、岩登りの足場は乾いてそうで悪く無さそうだ。

ハイカーで賑わう芦屋川駅北広場に9名の例会参加者が集う。スタート時刻の9時40分には気温が28度に上昇、湿度は85%を超える。蒸し風呂のような山行だ。剥き出しの六甲山系の岩肌とてっぺんの荒地山を見上げる。汗まみれの一日を覚悟した。

鷹尾山から三本目の送配電線までの登りは、雑木林の稜線歩きで案の定に汗ばむ。キャッスルウォール基部からは手足を使う岩歩きが続く。岩梯子と七右衛門の岩穴くぐりは、参加者皆さまのチームプレイのおかげで難なくクリア。

岩登りの終点、直壁の山肌に張り出した巨岩「テーブルロック」に到着。その広さ二坪半ほどの岩の上は昼寝したくなるほどに快適で眺望が良い。全員で小休憩した。眼下に神戸港、果てに目を凝らすと関西万博の大屋根リングがぼんやり浮かぶ。大阪湾からの爽やかな海風に煽られ、額の汗がスーッと退く。気分上々。

荒地山、なかみ山、荒地山分岐を通り過ぎて、横池（雄池）で昼食休憩。

池の浅瀬に強い光が差し、水面にひしめき浮かぶ緑青の蓮の葉に白い花が二分咲き。水際の枝葉にモリアオガエルの泡卵が巣をつくり、蓮花の下では孵化を待ち狙う小魚たち。クロード・モネの油彩『睡蓮』みたいな淡い奥行きと色は、避暑のおすすめ場所。

遅めの昼食を終えると、風吹岩で地域猫（赤毛のチャトラン）を愛でて、高座谷下降点からひたすら下る。段差のある岩場の足運び、滑りやすい花崗岩のザレの足場は慎重になり肩に力が入る。山行の後半、徐々に滝音が近づき聴こえてくる。

無事に高座の滝に着いた。冷たい水飛沫が舞う滝壺で顔を洗う。暑気払いついでに飛び込んで泳ぎたくなる衝動に駆られる。河童に間違われそうで、恥じらい躊躇した。

さて、ハイカーで賑わう茶屋が呼んでいる。かき氷やビールが美味そうだ。山行、本当にお疲れ様でした。

久しぶりの例会担当に、ご参加いただいた皆さま、ありがとうございました。